

(ロ)オオプロシキあるいはレオナルドの人間像。

(イ)元々言うことがでかすぎたと思う。だいたい学部内の教官の間で「総合」という言葉の理解が違うのだから。でも見方によっては、いろいろな主義、主張をもった教官の講義が聴けるのだから相対主義的態度養成にはピッタリ。

I 群 森 一晃

(イ)本や新聞を考えて読むこと。

(ロ)語学に強くすぐれた総合科学部生。

(イ)何事にも積極的にとりくんでいける人間になりたい。

I 群 森 啓二郎

(イ)クラブ活動

(ロ)何かはできるだろう総合科学部。

(イ)下級生を見ていて思うのだが、八方やぶれな若々しさがないように思える。若者にとって一番大切なのは、何ものをも恐れぬふてぶてしさではないだろうか。

技術史 杉田光雄

(ロ)何をするにも、何もしないのもあなたです。

(イ)ようやく就職もきまったし、残るは卒論だけ。といたいところだが、英・独語がのこっている。一年にとるべき単位を4年まで残しているのは、何たる思いやりのある学部だろう。

社会思想 北川健治

(イ)文化・文明の主体となりうるべき大学を考え、総合科学を成就すべくある哲学・思想を創造していくということ。

(ロ)文化創造の総合研究。

(イ)人間存在の原点に立ち自己の使命を深く考察し各人各様の総合性を尊重しあいたい。全ゆる語らいを本に先哲の箴言を序文につつつ広島哲学創造という気概だけは忘れずにいて欲しいということを皆んなに訴えていきたい。

行政法 井上郁男

(イ)ありません。

(ロ)ありません。

(イ)個人的理由もあるが、もっと同級生と接触し、遊んでいたらな、と思う。そのために親しい友人があまりできなかったことを後悔している。

情報行動科学コース

浅野 哲史

(イ)自己の内部変革に関する問題意識であるから、書かないことにする。ただし社会的興味に関しては何もしていない。

(ロ)終わり良ければ 全て良し。

(イ)ルバイヤート(岩波文庫訳)にある詩。

さあ、ハイヤームよ、酒に酔って
チューリップのような美女によるこべ。
世の終局は虚無に帰する。
よろこべ、ない筈のものがあると思って。

犬飼 建雄

(イ)特になし。

(イ)卒業生が誇れるような学部にそだててほしい。

定木 修治

(イ)特になし

(ロ)楽園だった。

(イ)1-2年当時は早く就職して学生生活からおさらばしたいと思っていたけれど、いざ就職が内定し卒業が目前にせまってくると、なにもかも自由だった学生生活がよくなり、もっと学生でいたいような気がしている。

嶋田 千恵子

(ロ)独立独歩

(イ)学部設立過程において、他学部との交渉が不完全だった部分があり、学部外において肩身の狭い思いをしたことがあった。特に教育学部の授業では総科生は完全無視という感じで、後輩にはこのような事のないよう望む。

白木 幸久

(イ)精神病(心の病)への理解。

(ロ)=好きなことをしたらいいじゃないか。それなら、そしてわからなかったら総科へどうぞ=

(イ)もっと下級生と知りあいになりたかった。研究会の形でいいから、伝統(そもそも伝統などといえるものなどないかもしれないが、個人的な思想でもいい、研究でもいい)を理解して、積み重ねていってほしい。

館 利恵

ｲ)勉強と旅行

㊦)専門の違う人と連帯感が持て、視野が広がる。
ｲ)就職がむつかしいよ。特に女性の皆さん。公務員でも最低半年はかけて準備をしなければならない。がんばってネ。

中島 幸彦

ｲ)自分たちがバイオニアであること。

㊦)広く、深く、のびのびと。

ｲ)いい学部で育てて下さい。10年後を楽しみにしています。

マンモス

ｲ)ふつうの人間、ふつうの学生こそこの世の、又、私達の生活する広大の主人公であることを実証することかな。出来なかったけど、やることだけはやりました。

㊦)ヒマを生かせる人の学部、ヒマつぶしの学部。

ｲ)オスカー・ワイルドの「幸福の王子」の中の「わがままな大男」の話を読んでみませんか。あなたが人との間でどううまくいかないと悩んだ時にこの本を開いてみて下さい。ごく最近ふと頭にうかんだ話なのですが……

森井 康幸

ｲ)運動不足にならないように注意した。

㊦)そうか、ダメだったか、でも明日があるさの総合科学部。

ｲ)情報コースの学生は、ちゃんと50kmの夜間徒歩を継続して行うこと！

環境科学コース

(Ⅰ群—数理学) 松波和光

ｲ)自分が一体何をしたいのか、何が一番むいているのか。

㊦)知識に貪欲になろう。

ｲ)総科にきた事を後悔はしない、が何をやりたいのか分からずじまいだった事が残念だ。後輩には、何かをつかんでもらいたい。

(Ⅱ群—物質科学 物理) 今井和之

ｲ)自分の適性はどこにあるか、人生をどう方向付けるか。

㊦)自分の気持しだいで良くもなるし、悪くもなる。可能性はあるが、中ぶらりん。

ｲ)私は究極的には総合科学部へ入って良かったと思っています。それは卒論をし始めてからだんだんと認識するようになりました。卒論がおもしろいというのではなく、それに取り組む事により人間的に多少なりとも成長したと思います。

(Ⅱ群—物質科学 物理) 柏田正博

ｲ)自己の発見、失われた自我を求めて。

㊦)求めよ、さらば開かれん。

ｲ)卒業を目の前にして、大学四年間、最初の三年間は苦悩、そして最後の一年間は、その間、自分なりに追求してきたものが意義をもち始めた。長い人生の基盤の糸口の発見、今から人生の探求であり、出発である。

(Ⅲ群—生物環境科学) 大場雅信

ｲ)すべての生き様

㊦)我々の学部は専門がないのが特色です。

ｲ)特にないけど、まあガンバッテ後輩諸氏、大変だからいろいろと。

(Ⅲ群—生物環境科学) 岸本 宏

ｲ)なし

㊦)なし

ｲ)なし

(Ⅳ群—地域環境科学) 佐野博道

ｲ)アルバイト・コンパ

(Ⅳ群—地域環境科学) Kaku

ｲ)都市問題、地域環境計画

㊦)本家本元教養部

ｲ)卒業させてほしい。……遊び足りなかったような気がする。11月に環境プレイボーイズを結成したが、あれから<よく遊び、よく遊べ>って感じてワリと充実している。デモ卒論がうまく進行しないのが気がかりナノ……ネ

4 アンケート雑感

アンケートを見終わって、全体的には、新設学部第一期生ということで、余分な負担を背負いながらも、パイオニアとしての自覚に強くあとおしされてきた姿が反映されていたといえる。研究面から言えば、それは年々、大なり小なりのカリキュラム訂正があり、講義の量、内容ともに、コースの特徴を生かしたものが少なかった。どのコースにしても、研究方法などといった既存のものではなく、そこから始めて行かねばならないという暗中模索の状態の連続だった。しかし、それだから、自分の学問の方向を何も頼らず自分自身で探すという積極的な行動をとらざるを得なかっただろうし、どうしても、つかまねばならなかったのだと思われる。そして、そのような人間の集まりとしての一期生であったから、学生間相互、教授との交流も親密なものであったのではなからうか。こういう理由から、四年間振り返ってみた場合、「良かった」と考える人が多いという印象は強かった。

しかし問題性が見えなかったわけではない。それは、研究面における、パーソナルな段階の反省が、多かったという点である。というのは、新設学部という、先に挙げたような環境の中で、自分のやるべき研究なりが見つけれられたら幸いで、その中で、いかに自分を納得させ、妥協させるかが一番の課題になってしまったのではないか、という事である。

これは、個人だけの問題ではなく、これから学部の環境、学生個人の学ぶ条件というものを整えて行かねばならない事を示すものである。「長短ひとことコーナー」からは、どんなふうに大学生活をエンジョイし、悩んできたかという一端に触れる事もできた。講義に関する項からは、教授さえ呼んで来れば、すぐ開講できそうなものから、「総合科学論」まで、必要を感じたものを挙げてもらった。ぜひ、開講の運びに持って行ってもらいたいと思うと同時に、講義に関してもっともと言えるようになっていったら良いとも思った。

以上、アンケート雑感であるが、49生全員対象だったにもかかわらず、集め得たのが、約半数であったので、正しく49生の姿が捉えられたとは言い難い。それに、全員に顔を出してもらおうという点でも果たせないものになった。この点については、非常に残念でしかたがない。だが、最後に、このアンケートに関わる関わらないに限らず、49生は、総合科学部の四年間を、肯定の答を出して終えるだろう。誰も自分の過した過去を否定するものはいない。だがそれ以上の意義を見い出して、一区切りのあとの進路をまた見つめていくのだろうと思う。その向こうには幸いあれと願って、このアンケートの終りとしたい。

(文)

